



Est. 1912

よこと館だより

発行：至誠学舎立川 編集：法人事務局



令和 5 年度 事業報告・決算について

至誠学舎立川 理事長 稲永勝行

紫陽花が美しく咲き誇る季節となりました。日頃より、皆様には福祉活動や業務に対する多大なご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、令和 5 年度の事業報告と決算がまとまりましたので、ここにご報告いたします。会計監査人監査、監事監査、理事会、評議委員会などの一連の手続きを経て、以下の通り振り返りを行います。

令和 5 年度は、4 月に政府が「こども基本法」を施行し、少子化対策を掲げた「こどもまんなか社会」の実現を目指して「こども家庭庁」を設置しました。初代小倉特命大臣は就任早々に至誠学園を視察し、施設で暮らす子どもたちと直接意見交換や交流を行いました。

5 月には、新型コロナウイルスの感染類型が変更され、日常生活は徐々に回復に向かいましたが、高齢施設では引き続き注意を払い、警戒を続けてまいりました。

6 月の定時評議員会では、役員の変更と選任が行われました。また、新春早々に発生した能登半島地震では、多くの犠牲者と甚大な被害が生じました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

2023 年度、法人の最大の課題は、高齢事業本部の財政健全化と至誠障害福祉総合センターの軌道に乗せることでした。高齢事業本部の財政問題については、事業本部内で財政健全化計画を策定し、健全化に取り組んでいます。また、法人全体でも高齢事業本部の法人分担金の軽減や資金繰りの改善を図るため、設備資金借入金の一部繰り上げ償還を実施するなど支援を続けています。しかし、人手不足などの影響もあり、安閑としてられない状況が続いていますが、何とか令和 5 年度の決算は黒字で終了することができました。

また、至誠障害福祉総合センターの軌道に乗せるため、グループホームが満床となり、生活介護と就労支援 B 型事業、ショートステイ事業全体で収支バランスを整えることができました。

まだ厳しい状況が続きますが、私たちの至誠の仕事が必要とされる方々により多く届いたおかげと感じています。これからも地域の福祉の増進に役職員一同、一丸となり努めてまいります。

決算について

- 児童事業本部
 - 令和 5 年度経常収入：約 15 億 8,000 万円（前年比約 8,200 万円の増加）
 - 保育事業本部
 - 令和 5 年度経常収入：約 29 億 9,000 万円（前年比約 1 億 2,300 万円の増加）
 - 高齢事業本部
 - 令和 5 年度経常収入：約 34 億 5,000 万円（前年比約 6,800 万円の増加）
- 以上

永年勤続表彰：山下監事（理事 10 年）



ホテル日航立川東京での懇親会、総勢 64 名。

近藤元評議員：4 月より立川市副市長にご就任。当法人の評議員をご退任となりました。



児童事業本部

今年も4月28日に子どもたちの健やかな成長を祝うガーデンパーティを開催しました。当日は天候に恵まれ、子どもたちのお友達や家族、地域の皆さん、ボランティア、ご支援いただいている方々、500人以上が集まり、演奏やステージ、ゲームコーナーなど、すべての子どももおとなも笑顔で楽しい1日になりました。新型コロナウイルスが5類になって1年が経ち、ようやく皆さんの笑顔からも安心感が戻ってきていることを感じます。

児童事業本部の施設の子どもたち、利用者と、職員を継続してお支えいただいているすべての皆様へ感謝申し上げます。ありがとうございました！



(児童事業本部事務局長 高橋誠一郎)

保育事業本部

梅雨入りもそろそろと言う時期ですが、当園は園庭がなくお天気の良い日には近隣の公園に散歩に行きます。3・4・5歳児クラスは手を繋ぎ日野駅やバスロータリーを通り通行人の方に声をかけられたり、交番のお巡りさんと仲良くして頂いたり地域の方々と顔なじみになっています。公園ではご近所のお子様も遊んでいたり邪魔をしないように遊んでいます。5月18日(土)「親子お楽しみ会」公園のスタンプラリーを楽しみました。日頃お散歩に行く4つの公園をお子様に案内してもらいながら保護者の方は楽しそうに歩いていました。ゴールの公園では〇×クイズをしたり保護者の方向士お話を花が咲いたり暑い中でしたが有意義な一日でした。今後も工夫をし保護者・職員と良い繋がりをこれからも作りたいと思っています。

(しせい太陽の子保育園 園長 廣瀬 優子)

高齢事業本部至誠ホーム

至誠柏ケアセンターは、高齢者を日中お預りするデイサービス(1日利用定員42名)と、在宅介護サービスをコーディネートする居宅介護支援(ケアマネジャー4名)を運営しています。

コロナ禍のデイサービスでは、塗り絵やパズルといった個人での趣味活動に取り組んでもらわざるを得ませんでした。新型コロナウイルスが5類へ移行となり、集団での趣味活動も少しずつ再開させてきました。最近では輪投げ、風船バレー、ピンポン玉ホッケー等の集団ゲームを、利用者さん全員で実施することが増え、「やったー!」「頑張れー!」「凄いね!」といった大きな歓声が飛び交っています。

普段はゆったりと過ごされている利用者さんが、大喜びしたり、大きな声で応援される姿を見せてくれると、その秘められたパワーに職員の方が驚かされます。

集団での趣味活動は、仲間意識を醸成させ、お互いの関心を高めてくれ、人間関係づくりとしては非常に有効です。コロナ禍では思うようにできなかった「人と人のふれあい」「絆づくり」に、これからも取り組んでいきたいと思っております。

(至誠柏ケアセンター センター長 鈴木伸行)

(編集後記)各事業本部の記事を読んでいると、コロナ前の行事が徐々に再開し、職員や利用者さんにとって楽しい時間が増えてきているなど感じます。今年はいくさんの行事が待っているかと思うとワクワクします!(小)